

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
 タイプA 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代表校名 (連携大学名)	千葉大学
事業名	千葉大学 基礎・臨床融合型国際研究のためのリーダー医師育成プログラム Chiba MD faculty leadership education program for preclinical and clinical research (CFL education program)
事業責任者	千葉大学医学部附属病院 副病院長（臨床研究）・花岡 英紀
事業の概要	
<p>本事業では中長期的に本学の医師の研究力の向上に資することを目的として以下の3つを行う。①千葉大学病院及び医学部・医学研究院と薬学部、データサイエンス学部と連携した教育研究体制（未来医療教育研究機構・機構長：横手幸太郎学長）のもと、医学部生、大学院生、若手医師を対象に基礎・臨床融合型国際研究リーダー育成プログラムにより高度な臨床および研究能力を有する医師を養成する。②研究におけるタスクシフトを図るためスタディマネージャー、CRC、生物統計家等で構成される臨床研究チームを増員しこれを率いるリーダーシップを有する医師による研究体制を整備する。③免疫学を生かしたワクチン開発、アレルギー、難病・老年医学、がん、精神・神経分野の治療薬等開発研究を東大医科研、Duke 大学などとの共同研究やクロスアポイント、人材派遣を通して、疾患別プラットフォーム型研究拠点を形成し系統的な国際レベルの臨床研究を行う。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○臨床研究推進する3分野の現在の進捗、具体的な強化部分が明確であり、実効性が高い。</p> <p>○国際レベルの臨床研究推進のための組織改変、「橋渡し研究推進室」による基礎・臨床融合研究医師育成体制の整備拡充、臨床研究を支援する臨床研究専門職（支援人材）「組織横断的臨床研究支援チーム」の3本を柱を進める内容が具体的である</p> <p>○臨床研究職員の計画的な採用、SAならびにTA、RAへの予算措置が計画されており、誰がSA、TA、RAへに何を教育するのかという点も具体的に明記されている。</p> <p>○基礎研究に紐づくワクチンや再生医療製品の開発研究を学ぶことを希望する学生をSAとして募集する計画であり、基礎研究と臨床研究の実践教育が期待される。</p> <p>○医師の教育研究時間の倍増という目標設定は評価できる。</p> <p>○診療参加型臨床実習の充実に向けて、トラブルシューティングマニュアル作成や、6年生SAによる教育支援など、医療安全や準備教育が充実している。</p> <p>○運営体制の長、また各担当機関と国内外の関連組織について体系的に構成されており優れている。</p> <p>○研究費等の獲得により事業を継続させる点、本邦全体にタスクシフトを発信する点などが具体的。</p> <p>○自己負担額を経年的に増加させていることは評価できる。</p> <p>●J-PEAKSの取組と一部重複するため、差別化あるいは、相乗的な発展を目指すことが望ましい。</p> <p>●雇用する研究支援者・TA・RA、協力医療機関の増加、研究時間の把握と増加の方策が不明確。</p> <p>●臨床実習中の6年生がSAとして全診療科に配置されるよう、効率的な運営を期待する。</p> <p>●臨床研究データの管理、バンク機能の強化が期待される。</p> <p>●取り組みの継続について、どのように進めていくのか示すことが望ましい。</p> <p>●TA、RAや研究補助者の雇用による教員負担軽減についての取組が期待される。</p> <p>●取組の規模が大きいため、教員間ならびに教員と本部等との連携を密にする方策が必要。</p> <p>●診療参加型臨床実習充実についてのステップを具体的かつ段階的に明確化することが望ましい。</p>	